

タンニン酸（試薬）

Tannic acid

1. 適用範囲 この規格は、試薬として用いるタンニン酸について規定する。

備考 この規格の引用規格を、次に示す。

JIS K 0067 化学製品の減量及び残分試験方法

JIS K 8001 試薬試験方法通則

2. 共通事項 この規格に共通する事項は、JIS K 8001 による。

3. 種類 1 級

4. 性質 タンニン酸は、次の性質を示す。

- (1) 性状 タンニン酸は、白～うすい黄色の軽い無定形の粉末、又はほとんど無色の光沢のある荒い小葉片で、かすかに特異のにおいがある。水、エタノールに溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

- (2) 定性方法 試料 1g に水 4ml を加えて溶かし、塩化鉄 (III) 溶液 (100g/l) 0.1ml を加えると暗い青の沈殿を生じる。

5. 品質 品質は、6.によって試験し、表 1 に適合しなければならない。

表 1 品質

項目	規格値
水溶状	試験適合
乾燥減量 (105℃)	12.0%以下
強熱残分（硫酸塩）	0.1%以下
重金属（Pb として）	0.002%以下
糖類及びデキストリン	試験適合

6. 試験方法 試験方法は、次のとおりとする。

- (1) 水溶状

試料 2g＋水 (→20ml) →水浴中で加熱……ほとんど澄明以内。

- (2) 乾燥減量 (105℃) 12.0%以下

JIS K 0067 の 4.1.4(1)（第 1 法 大気圧下で加熱乾燥する方法）による。試料 1g (0.1mg のけたまではかる) を用い、減量 0.120g 以下。

- (3) 強熱残分（硫酸塩） 0.1%以下

JIS K 0067 の 4.4.4(4) (第 4 法 硫酸塩として強熱する方法) による。試料 2g (0.1mg のけたまではかる) を用い、残分 2mg 以下。

(4) 重金属 (Pb として) 0.002%以下

試料側溶液：試料 1g→石英ガラス製蒸発皿にとる+硝酸マグネシウム・エタノール溶液 10ml。

標準側溶液：鉛標準液 (0.01mg Pb/ml) 2.0ml+硝酸マグネシウム・エタノール溶液 10ml。

操作：JIS K 8001 の 5.24(3) (硝酸マグネシウム処理硫化ナトリウム法) による。

(5) 糖類及びデキストリン

① 試料 2g+水 10ml+エタノール (95) 100ml→1 時間放置 (A 液) ……澄明。

② A 液+ジエチルエーテル 5ml……直ちに混濁しない。

7. 容器 密閉容器とする。

8. 表示 容器には、次の事項を表示しなければならない。

(1) 名称 “タンニン酸” 及び “試薬” の文字

(2) 種類

(3) 内容量

(4) 製造番号

(5) 製造業者名又はその略号

原案作成委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	川 瀬 晃	社団法人日本分析化学会
	地 崎 修	通商産業省基礎産業局生物化学産業課
	岡 林 哲 夫	工業技術院標準部繊維化学規格課
	札 川 紀 子	物質工学工業技術研究所計測化学部
	高 橋 孝 一	通商産業検査所検査部検査業務課
	野々村 誠	都立工業技術センター無機化学部
	加 山 英 男	財団法人日本規格協会
	石 橋 無味雄	厚生省国立衛生試験所
	森 崎 謙 一	社団法人日本化学工業協会
	嶋 貫 孝	社団法人日本分析化学会
	並 木 昭	財団法人化学品検査協会
	鶴 田 利 行	硫酸協会
	中 村 靖	日本鋳業協会
	大 槻 孝	社団法人日本鉄鋼協会
	坂 本 勉	財団法人日本規格協会
	高 田 芳 矩	財団法人日本分析センター
	日 暮 喜八郎	第一化学薬品株式会社
	鈴 木 正 信	和光純薬工業株式会社
	飯 岡 寛 一	柳島製薬株式会社
	高 野 虞美子	東京化成工業株式会社
(事務局)	飛 田 和 彦	米山化学工業株式会社
	山 岡 宏	片山化学工業株式会社
	山 田 和 夫	関東化学株式会社
	平 井 信 次	日本試薬連合会